

釧路湿原達古武湖付近の小沼で絶滅危惧植物ヒンジモ*Lemna trisulca* L. (サトイモ科) を確認

加藤 ゆき恵¹・苅部 治紀²

釧路湿原達古武湖付近の小沼で、2022年秋に絶滅危惧植物ヒンジモ*Lemna trisulca* L. (サトイモ科) の生育を確認したので報告する。

ヒンジモは沈水性の小形浮遊植物で、ため池などでよく見られるアオウキクサと同じアオウキクサ属に属すが、葉状体は披針形から狭卵形で、細長い柄で互いに連なっている(角野2014)。個体数の減少や生育環境の悪化により、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧II類(VU)、北海道レッドリスト(2001年)では絶滅危惧種(En)に指定されている。

釧路湿原東部にある達古武湖(釧路郡釧路町)は、1968年に日本最大のヒンジモ群落として報告された(外山・大滝1994)。その後、1975~79年の量的評価のない記録があり(神田ほか1980)、1990年(大滝1991)および1991年の調査(角野ほか1992)では個体数が減少、2000年・2003年には希少となり、2005年には確認できなくなった(角野2007)とされている。文献記録として最後に確認されているのは2004年である(環境省釧路自然環境事務所2013)。なお、ヒンジモは釧路湿原国立公園の指定植物(2022年改訂)に選定されており、採取等が規制されている。

今回ヒンジモが確認されたのは達古武湖付近の小沼であるが、生育地保全のため詳細な場所は非公表とする。確認地は植生遷移の進行した、浮島を伴う透明度が高い沼で、ヒンジモは2022年11月12日に水生昆虫の調査時に筆者の一人苅部によって目視確認された(図1)。確認個体数は多かった。達古武湖自体は水質汚染の進行や外来生物の影響で水生植物の著しい衰退が報告されているが、今回の発見地は沼からは隔離された立地であったことで、これまで生残してきた可能性が高い。生育環境等については、2023年以降に詳しく調査する予定である。

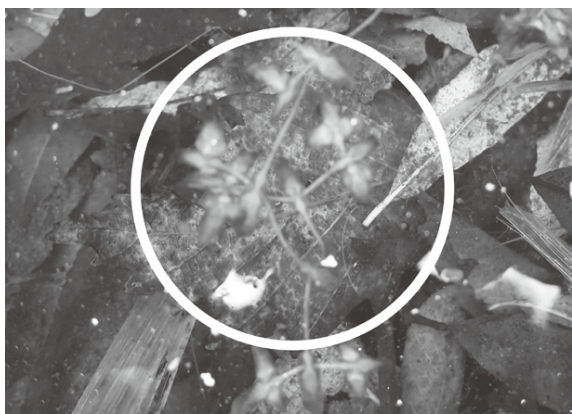


図1 2022年11月に確認したヒンジモ(丸の中)



図2 1980年に達古武湖で採集されたヒンジモ標本(1990年9月1日、釧路町達古武湖、大滝末男: KCMH007790)

引用文献

- 角野康郎. 2007. 達古武沼における過去30年間の水生植物相の変遷. 陸水学雑誌, 68: 105-108.
- 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版, 東京.
- 角野康郎・中村俊之・渡辺恭子・植田邦彦. 1992. 釧路湿原3湖沼の水生植物の現状. 植物地理・分類研究, 40: 41-46.
- 神田房行・角野康郎・大滝末男. 1980. 釧路湿原の3湖沼の水草について. 植物研究雑誌, 55: 144-147.
- 環境省釧路自然環境事務所. 2013. 達古武湖自然再生事業実施計画, p8. 環境省釧路自然環境事務所, 釧路.
- 大滝末男. 1991. 釧路湿原の湿原と周辺の4湖沼(達古武・シラルトロ湖・塘路湖・春採湖)の水生植物. 水草研究会報, 43: 23-28.
- 外山雅寛・大滝末男. 1994. 日本におけるヒンジモの分布～特に分布の動態・現状と天然記念物への緊急指定化をめざして. 水草研究会報, 54: 23-31.
- 環境省レッドリスト2020 <https://www.env.go.jp/press/107905.html>
- 北海道レッドリスト(2001年) <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/yasei/tokutei/rdb/redlist/list.html>
- 釧路湿原国立公園指定植物リスト(2022年改訂) <https://www.env.go.jp/nature/20220404kushirositugen%20.pdf>

1 釧路市立博物館

2 神奈川県立生命の星・地球博物館